

令和5年度 箕面市行政視察報告書

1 日程

令和5年8月7日（月）～8月8日（火）

2 視察先

（1）埼玉県上尾市

視察項目	中学校部活動地域移行モデル事業について
視察目的	上尾市立中学校における部活動の地域移行モデル事業の先進的な取り組みを学ぶことで、本市における中学校部活動地域移行の一助とする。

（2）静岡県富士宮市

視察項目	認知症施策の取り組みについて
視察目的	富士宮市が長年取り組んでこられた認知症になっても希望を持って日常生活を過ごせる共生の地域づくりの実践を学び、本市の認知症施策の一助とする。

3 参加者

議員	高橋竜馬、大脇典子、中嶋三四郎、川上加津子、内海辰郷
----	----------------------------

視察先名称 (埼玉県 上尾市教育委員会 スポーツ振興課)

項目	内容	備考
上尾市立中学校における部活動の現状と課題について	<ul style="list-style-type: none"> ・運動部 126 部、文化部 34 部、計 160 部 ・部活動の顧問としてやりがいを感じている教員の割合は約 60%。ただ、負担感、人材不足、保護者対応、活動時間の長さ等、多くの課題も提起されている。 	説明 上尾市教育委員会 スポーツ振興課
本モデル事業の概要について	<ul style="list-style-type: none"> ・埼玉県、上尾市教育委員会、埼玉上尾メディックス(プロバレーボールチーム)が一体となり、休日のバレーボール部活動を地域クラブ活動としていく試みである。 	同上
本モデル事業にかかる成果と課題について	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒が専門的なコーチングを受け、様々な練習方法も教えられ、満足度も高かった。教員の精神的、身体的負担の軽減にもなった。 ・教員の立ち位置、遠征の引率、大会への参加、関係者の連携のあり方などは課題である。 	同上
令和 5 年度以降の取り組みについて	<ul style="list-style-type: none"> ・上尾市立中学校部活動地域移行推進協議会を立ち上げる。学識経験者、スポーツ、文化活動団体等の代表者を交えた組織で、部活動の課題、地域移行への体制整備等調査審議の上、基本方針を策定していく。 	同上

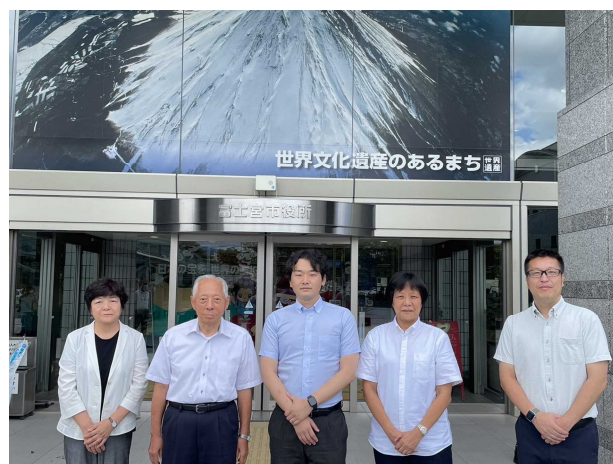


所感

生徒、顧問へのアンケート実施、保護者説明会の開催、総合型地域スポーツクラブ、スポーツ協会、競技連盟、文化芸術団体等との連携など、モデル事業を成功に導くため、非常に丁寧に取り組まれている。この視察で学んだことを生かし、本市での生徒を中心に据えた教員、保護者、関係団体が一丸となった部活動の地域移行に微力を尽くしたいと思った。

視察先名称 (静岡県 富士宮市 福祉企画課)

項目	内容	備考
認知症個別支援の充実について	<ul style="list-style-type: none"> ・その人自身の声をよく聴き、思いや生活を大切にすること ・支援を介護サービスや医療につなげて終了とせず、その人にとって何が必要かという視点を持って関係機関と繋がること 	説明 福祉企画課
認知症の人やその家族の視点の重視について	<ul style="list-style-type: none"> ・本人や家族が集い、出会うことのできる場を増やしていくこと ・色々な場面で本人が発言できること ・相談しやすい体制と専門職のスキルアップ 	同上
認知症カフェで大切にしていることについて	<ul style="list-style-type: none"> ・本人同士が出会える・安心して参加でき、気持ちが楽になる・認知症のことを誰でも気軽に相談でき、情報が得られる・専門職も立場を超えて交流する・スタッフもともに楽しめる・自分のペースで参加し、無理をしない。 	同上
住民主体の活動支援について	<ul style="list-style-type: none"> ・住民が中心となり認知症の理解啓発活動や居場所作りに取り組めるための後方支援 ・地域住民と行政が目線を合わせて、意見を言い合える環境づくり ・住民自身が認知症を自分事として捉え、活動が楽しめるための支援 	同上



所感

認知症の方とともに生きていく共生のまちづくりは、18年も前から始められた。認知症サポーター養成講座も累計で662回、認知症ボランティアに携わるキャラバン・メイトは、実に450人、圧倒されるばかりであった。65歳以上の5人に1人が認知症と言われる時代、視察で学んだことを生かし、本市の認知症施策の充実に取り組んでいきたい。